



塩原友子『日蝕 (赤)』『月蝕 (黄)』昭和43年
木、顔料 (各130cm × 162cm)

未来への贈りもの

本市収蔵作品

「未来への贈りもの」は、今回で終了します。本市で所蔵する美術品は、今後アーツ前橋で定期的に紹介していきます。

黒いベニヤ板を格子状に区切った中に、太陽と月を表す赤と黄で円形に塗り込み、その上に黒い丸型のベニヤ板を重ねています。まるで天体ショーのように太陽と月が欠けていく様子が見えます。

作者の日本画家・塩原友子さん（大正10年生まれ）は、本作品で筆による線描だけでなく、立体の厚みや影によって生まれる線など、日本画の特徴のひとつである「線」の新しい表現を追究しました。

塩原さんは田口町に生まれ、前橋高等女学校、群馬県女子師範学校を卒業。約10年間教職に就いた後、昭和25年に武蔵野美術学校（現・武蔵野美術大）に編入しました。昭和27年に日本画院展に初出品・初入選し、同院創立者の望月春江に師事すると、個展で発表しながらも日本画院展を中心に活躍しました。

写生的な静物や風景、実験的な作品、上毛三山を題材とした宗教的モチーフを描いた作品など、塩原さんの作風は多岐にわたります。多様な技法で日本画の枠組みにとらわれない作品を制作しています。

問い合わせは 芸術文化推進室 ☎230-1144

気負わず自然体で続けてきただけ



「声の広報」を支える指導者

金子 純子さん 73歳
敷島町

目の不自由な人のために広報まえばしを朗読し、カセットテープに吹き込んで自宅へ送る「声の広報まえばし」。現在、この事業を支えるボランティアは20人で、毎月2回、紙面のほとんどをテープに収め、発送する作業に取り組んでいる。この音訳指導に当たるとともに、県立点字図書館のボランティアとして、長年にわたり活動してきた。

「義父が盲学校の教諭でしたので、家に同僚や生徒たちの出入りが多く、そのような生活環境の中で、ごく自然にお手伝いをするようになりました」子どもに手がからなくなった40歳のときに、県立点字図書館の養成講座を受けたことがボランティアを始める契機となった。

「新人の養成にあたっては、『どう読むか』ではなく、『どう聞こえるか』に重点を置き指導してきました。文の切り方、発声、発音、滑舌を繰り返し何度でも練習します。テープから流れる声によって、利用者が正しく内容をくみ取るとはもちろん、親近感を持って聞いていただきたいと願っているのです。人柄の伝わる読み方が音訳者には求められていると思います」

大の読書好き。時間があれば幅広い分野の本を読み、向上心を忘れない。「『声の広報まえばし』作成に携わるボランティアの活動が、より充実するための手助けできれば」自然体をモットーに、長年の豊富な経験を進めへと伝え続けている。



スポーツを通じて両市の交流

2月24日、市民体育館で前橋・高崎連携スポーツ交流「レディースバレーボール大会」を開催しました。両市からそれぞれ12チームずつが参加して、ネットをはさんだ熱戦を展開。爽やかな汗を流しながら、スポーツを通じた市民交流を図りました。



市内の優秀選手 231人を表彰

前橋テルサで2月26日、スポーツで優秀な成績を収めた小中学生をたたえて、優秀選手表彰式を行いました。対象の231人には、一人一人に表彰状などを贈呈。全国中学校駅伝大会を制した富士見中駅伝部の萩原百萌さんが、代表でお礼の言葉を述べました。



「アーツを語る」意見活発に

中央公民館で2月25日、「『アーツなトーク』市長とアーツをアツク語る。」を行いました。中之条ピエンナーレの発案者・入内島道隆さんらと交え、地域における文化活動などについてのトークセッション。観覧者からも多くの活発な意見が飛び交いました。



岡田行喜議長

石塚武副議長

市議会の新しい正副議長決まる

第1回定例市議会が3月4日に開会しました。新しい議長には岡田行喜議員を、また、副議長には石塚武議員を選出。平成25年度の一般会計予算などについて、審議をしています。本会議では代表質問、総括質問などが行われ、会期は3月27日(水)までです。